

(6) 県立中村中学校

学 校 長 山崎 源生
校内研究代表者 中本 大

1. 研究主題

地域からの熱い思いに応え、高い志を持ち、中高一貫の6年間を熱く語れる魅力ある生徒の育成
～生徒が思考を深め、自分の考えや思いを表現する発問・活動の研究～

2. 主題設定の理由

本校生徒は、通学区域が広範囲で、多くの小学校から集まった集団である。素直で優しい生徒が多く、落ち着いた学校生活を送っている。一方で、まわりとの人間関係を築くことを苦手としている生徒が増加傾向にあり、教育活動全体を通じてなかまづくりを意図的・計画的に仕組む必要がある。また学習面では、全国学力・学習状況調査において国語+10.0P、数学+9.6P、理科+2.7Pと全国平均を上回っているものの、経年比較では全国平均との差は縮まりつつある。基礎・基本の定着や記述問題の正答率にはまだまだ改善の余地があり、目的や課題に応じて情報を活用し論理的にまとめたり伝えたりする力の底上げが必要である。高知県学力定着状況調査においても同様の傾向が見られ、本校の生徒の共通の課題として深い思考ができて、表現をすることに課題が見られる。

そこで今年度は、生徒一人ひとりへの個別の支援と生徒が授業中に様々な方法で表現することができるようにする力を身に付けることの2つを目的とし上記の主題を設定し、授業改善と生徒が安心して学べる居場所づくりに重点を置いて研究を進めることとした。

3. 研究の進め方と方法

本校は中高一貫教育校であるため、校内研究は中高合同で行っている部分が多く、研修計画も分掌を中心に立案し研究を進めている。昨年度までは中学校独自の会として中学校確認会とサポート委員会をそれぞれ月に1回行ってきたが、今年度からは中学校独自の様々な課題について研修する時間を確保するため、月1回の中学校校内研修の時間を設定した。

☆中学校独自

- ・中学校校内研修（月1回） ・中学校サポート委員会（月1回） ・中学校確認会（月1回）
- ・教科会（週1回） ・学年部会（週1回）

☆中高合同校内研修

- ・進路指導部・・・進路、学習関係全般
- ・サポート部、生徒指導部・・・生徒の心のケア、人権教育、生徒指導関係全般
- ・研修部・・・ピアチューターや課題研究
- ・総務部・・・防災関係全般

4. 研究内容

☆中学校独自

- ・校内研修⇒授業改善（資質・能力ベースの授業づくり）と生徒が安心して学べる居場所づくり
- 4月：授業スタンダードと安心して学べる居場所づくりについて、今年度の方向性の確認
- 5月：総合的な学習の時間における探究課題：西部教育事務所 山崎指導主事
- 6月：指導と評価の一体化：西部教育事務所 岡田指導主事
- 7月：全国学力・学習状況調査の分析、1学期の総括、研究授業における参観の視点の設定

8月：インクルーシブ教育、発達障害への理解と対応について：西部教育事務所 奥宮指導主事

9月：SOSの出し方に関する研修：県立精神保健福祉センター 政本精神保健福祉士

児童生徒の協働的な学びにおけるICTの活用：NITSオンライン講座

10月：道徳教育：研究授業（1年）と事後協議、道徳教育全般について

11月：ICTの活用：研究授業（2年社会科歴史分野）の指導案事前検討

11月：ICTの活用：研究授業（2年社会科歴史分野）と事後協議、ICTの活用事例の共有

12月：人権教育（いじめ問題）：人権教育主任による伝達講習

1月：県学力定着状況調査自校採点の分析

2月：年度末検証、来年度の研究主題等について協議

3月：県学力定着状況調査業者採点の分析、来年度の研究主題等の確認

その他：行事等の反省、来年度教育計画の作成

- ・サポート委員会⇒サポートの必要な生徒の情報共有と支援の在り方を考える
- ・中学校確認会⇒日程や行事等の確認
- ・教科会⇒授業づくりや学習進度確認等
- ・学年部会⇒生徒支援、道徳、学級活動、総合的な学習の時間等について
- ・生活日誌やきもちメーターの確認の徹底

☆中学校、高校合同の取り組み

＜進路指導部：学力向上のための組織的な取り組み＞

①毎週月曜日実施の確認テスト

国語・数学・英語の順に毎週実施（不合格者は再テスト）

②家庭学習時間調査（年3回実施）

生徒の家庭での学習の状況を定期的に把握し、日々の指導に生かす。また、保護者への啓発と協力の要請に活用する。

③高校教員との異教科間の相互授業参観

校種と教科を超えた相互授業参観を実施し、相互に評価し合う。高校での授業の様子を見ることができると同時に、県中卒業生の成長を知ることができる。

【参観の視点】

- 1 学習の目標（めあて）を明確に示し、生徒と共有できている。
- 2 意欲的に授業に取り組もうとする生徒の姿がある。
- 3 生徒の興味や知的関心を引き出す発問・指示ができている。
- 4 授業のねらいに応じた学習形態（ペアやグループなど）の工夫ができている。
- 5 生徒が他の生徒と協調・協力して活動する場面を設定できている。
- 6 何ができるようになったかを、生徒が振り返る場面を設定できている。

④夏季補習

加力の必要な生徒に焦点を当てた補充学習を実施する。

⑤学力検討会

学期に1回実施。教科部会で分析したのち、中高全教職員で共有する。協議を通して、学力の現状と課題を把握し、実現可能な新たな数値目標や取り組みを設定する。

＜サポート部＞

- ・Q-Uアンケート（年2回）と学校生活アンケート（年5回）の実施と実施後の迅速なアンケート集計とその対応
学校生活アンケート実施日に即日集計し、その日のうちに気になる生徒に面談等の実施。
- ・いじめ検討委員会（随時）の開催

<研修部>

- ・中高6年間を見通したキャリアプラン、「総合的な学習の時間」の見直し
- ・ピアチューター：中学生と高校生との異校種間交流

5. 今年度の成果と課題

【家庭学習時間調査】：平日の家庭学習時間（昨年度11月⇒今年度6月⇒今年度11月）

1年：82分⇒64分、2年：81分⇒57分⇒51分、3年：56分⇒54分⇒52分

【教員授業づくりアンケート】

- ・授業において「めあて」の提示ができています。
⇒①できている：42.9% ②概ねできている：57.1%
- ・授業において「まとめ」「振り返り」ができています
⇒①できている：7% ②概ねできている：85.7%
- ・分かりやすい授業になるように工夫している
⇒①できている：28.6% ②概ねできている：71.4%
- ・授業においてタブレットなどのICTを活用している
⇒①できている：50.0% ②概ねできている：35.7%

【学校評価アンケート】

- ・（生徒は）学校生活での生活に満足している ⇒生徒97.0%、保護者88.6%
- ・（生徒は）目標を持って学校生活を送っている ⇒生徒79.7%、保護者62.8%
- ・（生徒は）悩みや心配事があるとき、教職員に相談している ⇒生徒56.8%、保護者66.7%
- ・分かりやすい授業が多い ⇒生徒91.7%、保護者66.4%
- ・教材や教え方を工夫している教職員が多い ⇒生徒92.5%、保護者45.1%

◎授業改善について

今年度からスタートした中学校独自の校内研修の時間の中で、年度当初の授業スタンダードを確認や1学期の総括をもとに授業参観の視点を決め研究授業を年2回実施したこと、5教科統一したシートで県学力定着状況調査の分析を実施したこと等により、中学校教職員の同僚性が向上し授業改善への意識が高まった。各アンケートの肯定的評価の数値は高いものとなっているが、県学力定着状況調査においては、複数ある情報を整理すること、条件や条件の変更に応じて問題を解くこと、表現の中に必要な情報がない等の課題がみられる。また、家庭学習時間は年々減少傾向にあり学年が上がるごとに少なくなっており、主体的に学ぶ意欲のある生徒とそうでない生徒の格差が開いている。ICTの活用についても意識が高まったものの協働学習における活用には課題がある。来年度は今年度の流れを継承しつつ、教科会の内容や研究授業の事前・事後協議の内容の充実を図り、中高異教科間の相互授業参観なども活用し高校教員を巻き込んで日常的に授業改善の質を高めていく必要がある。

◎生徒が安心して学べる居場所づくり

サポート委員会や学年部会、日々の生活日誌やきもちメーターの確認等により、支援が必要生徒への対応を校内のみならず外部機関とも連携しながら迅速に行うことができ、不登校生徒はゼロである。アンケートの結果からも生徒は学校生活に満足しているが、しかしながらQUにおいて要支援群に属する生徒もいる。また発達障害等により人間関係づくりに課題がある、自分の悩みや心配事を自ら相談できないといった生徒も多数いる。来年度も今年度同様、生徒指導の三機能・特別支援教育・道徳教育・特別活動の充実を図り生徒が安心して学べる居場所づくりを進めるとともに、中学生が意欲的に取り組める中学校独自の行事等についても考えていきたい。